



# 地域医療連携ニュース

発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>  
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

も	● 新年のご挨拶	1	● 生活習慣病センター	5
く	● リウマチ膠原病センター	2	● 検査部	6
じ	● 総合内科	3	● 血液浄化センター	7
	● 眼科	4	● 外来診療表	8

## 新年のご挨拶 ～新型コロナ拠点病院の2年目～

旧年中は当センターの運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当センターが兵庫県の新型コロナウイルス感染症拠点病院となつてから、この春で丸2年を迎えようとしています。令和3年の当センターは第3波の猛烈な拡大の中で新年を迎えました。この頃は当センターのコロナ病床が最も逼迫した時期で、いよいよ当センターにも医療崩壊が迫っていると、危機感が最高潮に達した時期でもありました。その後、第4波、第5波とさらに高い波が押し寄せましたが、ワクチンの普及や治療薬の開発、そして何より当センタースタッフ全員の奮闘と、地域の医療機関の皆様のご協力のおかげで、この危機的状況を何とか乗り越えることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

令和3年の新型コロナウイルス感染症拠点病院としてのトピックスは3つあります。

1つ目は新型コロナのワクチン接種が始まったことです。ワクチンは発症予防、重症化予防、さらには感染予防にも高い効果を発揮し、これまでは防戦一方だったウイルスとの戦いにおいて、大きな盾となりました。当センターは医療者優先接種の基本型接種施設となっただけでなく、一般市民を対象とした加古川市の集団接種にも積極的に参加しました。集団接種に協力することは、感染者を減らして、自らの負担を減らすことにもつながるからです。先日、加古川市のワクチン接種率が80%を越えたとの報告を市長から頂きました。

2つ目は当センター敷地内で重症コロナ病棟の運用が開始されたことです。これは兵庫県が運用する重症コロナ専用の臨時病棟です。外見はプレハブそのものですが、中味は本館のICUに匹敵する施設です。一番の懸案であったスタッフは各県立、公立病院、大学病院から多数の応援を頂き、当センターのスタッフと併せてall Hyogoで運営してきました。重症コロナ病棟の意義は、本館と分離することによる院内感染のリスク軽減、そして通常の救急診療とコロナ診療の両立を図ることでした。しかし、実際には第4波の拡大で、重症コロナ病棟はあっという間に満床となり、やむを得ず本館のICUでも重症コロナを収容することになりました。

3つ目は7月末から始まった抗体カクテル療法です。対象は中等症1までの比較的軽症で重症化リスクを有する患者さんに限定されますが、当センターでは専用病床を設けて、短期入院での抗体カクテル療法を168例に行いました。重症に移行した例は0ですので、重症化予防としては非常に有効と思われます。治療薬の開発はウイルスと戦う武器が増えることで、新型コロナとの戦いにもようやく光が見えてきました。

第6波はいつ、どんな規模で来るかは分かりませんが、今後当センターはコロナの拠点病院としてだけでなく、地域医療の基幹病院として、その使命を果たしていきたいと考えています。そのためには、地域の皆様のご支援、ご協力が不可欠となりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 原田俊彦

# リウマチ膠原病センター



リウマチ膠原病センター次長・リウマチ科部長兼整形外科部長 **中川 夏子**

当リウマチ膠原病センターは、2016年4月より診療を開始、内科と整形外科の専門医が月曜から金曜まで毎日診察を行っています。(内科医6名、整形外科医2名・毎日4診体制です)

## ■ 当センターの特徴

「断らないリウマチ科」をモットーに、兵庫県下全域、さらには近隣府県からもご紹介をいただいております。当院では、現在使用可能な生物学的製剤、JAK阻害薬を含めいずれの抗リウマチ薬も処方が可能なので、使用されている患者さんも年々増加しています。生物学的製剤の自己注射指導も経験と知識の豊富な看護師が行っています。関節リウマチ以外の多数の膠原病患者さんの加療も行っています。現在約3400人の患者さんの通院加療を行っており、関節リウマチ関連の手術件数も2016年4月から2021年3月までで合計531件となっております。

## ■ 関節リウマチについて

現在、関節リウマチは、治療の進歩により寛解を目標とすることが可能になっています。また、骨破壊が発症後早期かつ急速に進行することも明らかとなり、そのため、症状が出現してからいかに迅速に診断し、速やかに適切な治療を開始するかが極めて重要な時代となっています。関節リウマチの診断や薬物治療についてのご相談、または関節リウマチの手術に関するご相談も、適応の判断なども含めまして、どのようなことでも随時受け付けております。手術については、高度な手指・足部の変形など、手術できないかもしれない・無理では？と思われるような場合でも、当科では手術検討可能ですので、ぜひご相談ください。膠原病に関しても、疑わしいがはっきりしない、否定できないような症状があるなどの場合はぜひご紹介ください。

## ■ スタッフ紹介

**田中 泰史** (副院長兼リウマチ膠原病センター長・リウマチ科部長 昭和57年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本内科学会認定医、日本リウマチ財団登録医

**中川 夏子** (リウマチ膠原病センター次長・リウマチ科部長兼整形外科部長 昭和60年卒)

日本リウマチ学会理事・専門医・指導医・評議員  
日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定リウマチ医・スポーツ医・  
運動器リハビリテーション医  
日本手外科学会認定手の外科専門医、日本リウマチ財団登録医

**吉原 良祐** (リウマチ科部長兼リウマチ膠原病センター部長 昭和60年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本内科学会総合内科専門医

**村田 美紀** (リウマチ科部長兼リウマチ膠原病センター部長 平成6年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本内科学会指導医・認定医、日本リウマチ財団登録医

**上藤 淳郎** (リウマチ科医長兼整形外科医長・リウマチ膠原病センター医長 平成18年卒)

日本整形外科学会専門医

**天野 典彦** (リウマチ科医長兼リウマチ膠原病センター医長 平成25年卒)

日本内科学会認定医

**塩澤 和子** (非常勤医師 昭和51年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本内科学会指導医・認定医、日本リウマチ財団登録医

**西田 美和** (非常勤医師 平成19年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医



# 総合内科

総合内科主任医長 **中村 幸子**

## その特色と本年度の総合内科

総合内科は、様々な症候に対して、より広い観点から総合的な病態診断を行い、エビデンスに基づいた診療を行う診療科です。当院における内科領域のプライマリ・ケアの中心的役割をはたしており、各専門内科のみならず、各科領域の専門医と密に連携をとりながら、より正確で質の高い診療を目指しています。(図1)

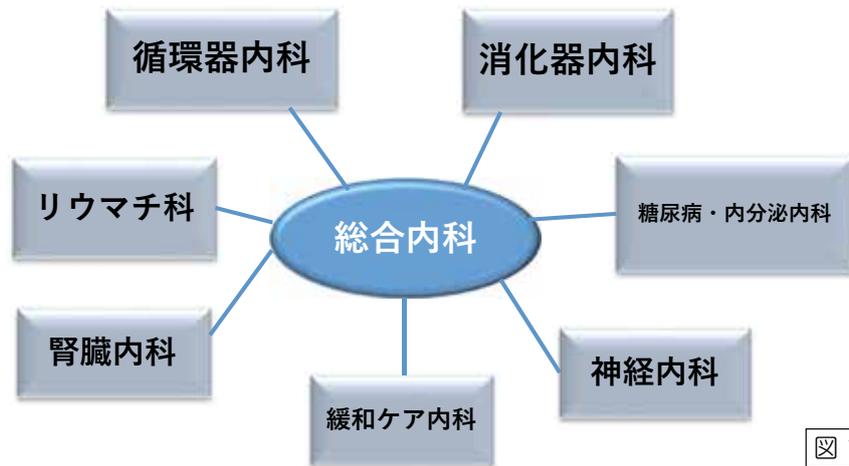


図1

## 地域医療機関の先生方へ

昨年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、初診予約、当日紹介を含め総合内科診療は休止し、地域医療機関の先生方には多大なご迷惑をおかけいたしました。今年度は、新型コロナウイルス感染症対応と平行して、総合内科診療も徐々に再開しております。

内科の各専門領域にあてはまらず、一般内科的な診療を希望される症例であれば、総合内科にご紹介ください。特に地域の先生方が診療に当たられている中で、病態が把握しにくく、もう少し深く検査検討することが望ましいとお考えになる場合、当総合内科へご紹介頂ければと存じます。初診予約を頂きこれまでの経過をお教え頂けると、患者さんをお待たせすることなくスムーズに診療できますので、よろしくお願いします。コロナ患者の受け入れ病床を確保している中での限られた病床の範囲となりますが、一般内科領域での急な病状悪化や緊急入院などにはできるだけ対応させていただきますので、ご連絡頂ければと存じます。病状が安定すれば、地域の先生方に継続加療をお願いすることも多いと思いますので、よろしくお願い致します。



### ■総合内科スタッフ

中村 幸子	平成14年卒
大北 弘幸	平成17年卒
藤田 泰功	平成23年卒
石田 育大	平成24年卒

### ■総合内科専攻医

渡邊 美季	平成31年卒
-------	--------

# 眼科



眼科部長 薄木佳子

近隣の先生方にはいつも大切な患者さんのご紹介をいただきまして誠にありがとうございます。当科では常勤医 1 名非常勤医 3 名にて手術対象疾患を中心に診療を行っております。

**白内障手術** 通院の負担を減らすため、初診日に手術までの全ての手続きや検査が完了するようにしています。入院による両眼手術は 3～4 泊、片眼手術は 1～2 泊で行っており、日帰り通院手術、全身麻酔下の手術、眼内レンズ縫着や術中・術後のトラブルを含めた難症例白内障の手術も可能です。

保険適応の眼内レンズは通常の単焦点レンズに加え、乱視矯正レンズ、分節眼内レンズ (Lentiscomfort; 遠方から 50cm くらいの近方まで見えるレンズ 乱視矯正も採用)、さらに本年 6 月より単焦点レンズではありませんが遠方から中間距離まで明視域の広がった TECNIS Eyhance も採用しており、患者さんのより鮮明な見え方にこだわっています。

選定療養 (保険診療 プラス 12～22 万円) の多焦点眼内レンズでは、新たに連続焦点型 TECNIS Synergy を導入し、TECNIS multifocal・Symfony、ALCON PanOptix とラインナップが広がりました。それぞれレンズの長所短所があるため、患者さんの生活をしっかり伺って使用しています。

**網膜硝子体手術** 黄斑円孔、黄斑上膜だけでなく、裂孔原性網膜剥離、増殖糖尿病網膜症、黄斑下出血などを含めた難症例も手術可能です。眼内にガスが入る場合は出来るだけうつ伏せ頭位期間が短くなるよう工夫し、早期退院も可能です。入院期間はなるべくご要望に沿う形で対応しています。

**涙道手術** 涙道疾患にも力を入れています。流涙やなみだ目・長引く目やには視力低下の原因にもなり大変不快な症状です。当科では涙道内視鏡を使って涙道内を観察し、狭窄・閉塞した涙道を開放しています。

**翼状片手術** 再発の少ない遊離結膜弁移植法を採用しており、数年以内での再発は経験していません。

**抗 VEGF 注射** 加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑症に対する加療を行っております。外来でも抗 VEGF 注射が出来るようになり、患者さんの利便性が向上しました。

**ロービジョンケア** 眼鏡を装用しても十分な視力が得られない方に対し、身体障がい者認定、適切な福祉情報提供、拡大レンズなどの道具の紹介を行い、日常生活が送りやすいようお手伝いしています。羞明を和らげる遮光眼鏡は、身体障がい者手帳を取得すると補助を受けることができます。一部の眼底疾患やレーザー治療を受けて羞明を自覚する患者さんには一度試していただきたいと思っております。

**こども外来** 石川医師の着任により斜視・弱視・近視外来を開始しています。



## ■ スタッフ

薄木佳子	S60 卒
徳川英樹	H11 卒
秋田ゆかり	H16 卒
石川久美子	H16 卒

# コロナ禍での生活習慣病センターの活動

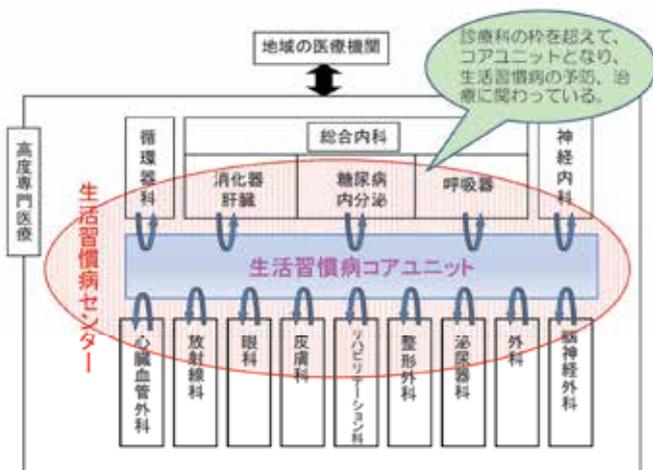
生活習慣病センター次長 兼 糖尿病・内分泌内科部長 **飯田啓二**

当院の生活習慣病センターは、生活習慣病の全県の拠点的な機能を充実させるため、2009年11月に新病院開設とともに政策医療の1つとして設立されました。医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、理学療法士等により生活習慣病コアユニットが構成されており、各診療科と協力して治療にあたっています。現在、肝臓病チーム、糖尿病・肥満チーム、足病変チーム、動脈硬化・禁煙チーム、腎臓病チーム、骨粗鬆症チームの6つが活動しており、コロナ禍以前には1Fエレベーター前にある学習ひろばで、外来教室による疾患の啓蒙活動を中心にさまざまな活動を行っていました。

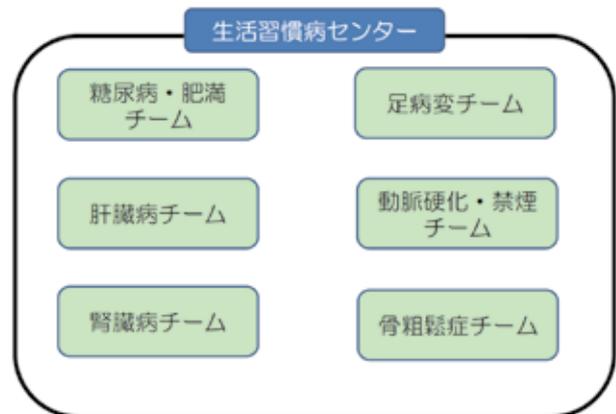
ところが2020年3月以降、全世界的なCOVID-19感染拡大により緊急事態宣言が繰り返され、患者さんの生活スタイルも大きく変化しました。外に出ることを控えたために運動量がめっきり減った人が多い一方で、外食が減ったことで血糖管理が悪くなった人も良かった人もいるのが現状です。

生活習慣病センターはこの期間、「どなたでも参加していただける」のが売りであった外来の各種教室は中止を余儀なくされています。コロナ禍でのセンターの活動として、院内各所に食事についての豆知識を掲示してあるほか、各外来前のモニターに、COVID-19に関する情報とともに、コロナ禍での生活習慣改善のポイントを流すようにしています。感染状況を慎重に見極めながら、近いうちに学習ひろばでの学習を再開したいと考えています。

また定期的に「生活習慣病だより」を発行しております。対象を医療者だけではなく、一般市民にも広げてホームページにも掲載していますので、疾病予防のための生活習慣病センターを、引き続きぜひご利用ください。



## 6つのチーム



■生活習慣病センターの各チームとチームリーダー  
センター長：伊 聖哲（消化器内科）

チーム名	チームリーダー（診療科）
肝臓病	伊 聖哲（消化器内科）
糖尿病・肥満	飯田啓二（糖尿病・内分泌内科）
足病変	増田泰之（皮膚科）
動脈硬化・禁煙	岩田幸代（循環器内科）
腎臓病	加藤陽子（腎臓内科）
骨粗鬆症	青木謙二（整形外科）

# 検査部

検査技師長 藤中早代

## 新型コロナ PCR 検査装置を活用しています！

検査部では 35 名の臨床検査技師が、検体検査や生理検査などさまざまな検査を実施しています。細菌検査室では新型コロナウイルス検出用に導入した全自動遺伝子解析装置フィルムアレイ（ビュオメリュージャパン）を活用し、血液培養パネルを開始しました。＜原理：マルチプレックス PCR 法＞

### 血液培養検査の流れ

#### ■ フィルムアレイ 血液培養パネル

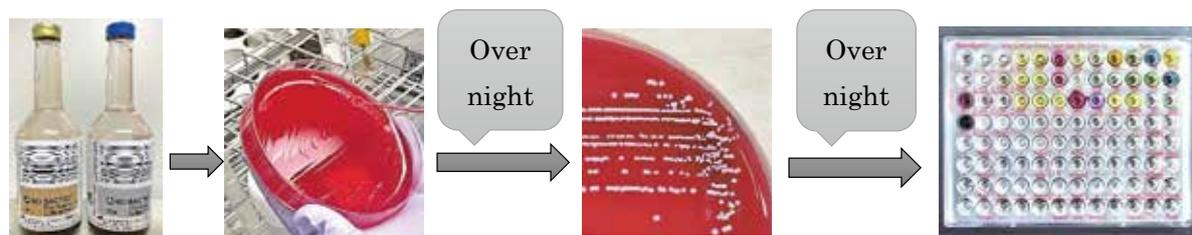
血液培養陽性検体を材料とし、24 種類の細菌・真菌と 3 項目の薬剤耐性遺伝子を約 1 時間で検出できます。



FilmArray での菌名同定の流れ

#### ■ 従来の血液培養同定法

血液培養で陽性となった検体は、グラム染色にて検鏡し起炎菌を推定します。同時に培地へサブカルチャーし、発育したコロニーの生化学的性状を鑑別し菌名を同定します。



培養同定法での菌名同定の流れ

### AST（抗菌薬適正使用支援チーム）に貢献しています

遺伝子検査による同定は操作が簡便であり、短時間で同定が可能です。

しかし検出できる菌に限られること、複数菌が混在した場合に誤判定を招く恐れがあることなどデメリットもあります。従来法を基本とし、有効に組み合わせて活用しています。

抗菌薬適正使用、薬剤耐性対策等の早期の適切な判断に貢献しています。



# 血液浄化センター・腎臓内科

腎臓内科部長 兼 血液浄化センター部長 **加藤 陽子**

平素より貴重な症例をご紹介頂き誠にありがとうございます。

2016年12月に甲南加古川病院から診療機能を受け継いで血液浄化センターを開設し、早いもので丸5年が過ぎました。地域の先生方のご協力を得て診療を行いやっと軌道に乗り始めた頃に新型コロナウイルス感染症が流行し、一時は新型コロナウイルス感染症治療を優先せざるを得ない時もありましたが、現在は第5波も落ち着き新型コロナウイルス流行前と同じ診療体制に戻っています。

透析室は38床のオープンベッドと2床の個室陰圧室から成ります。当透析室はCHDF以外の様々な血液浄化方法に対応し（オンラインHDFは全ベッドで対応可能、そのほかi-HDF、無酢酸透析など）、患者さんの状態に応じた血液浄化方法を選択することが出来ます。昨今の透析患者さんの年齢層は30～40歳代の若年者から90歳代の超高齢者まで多岐に渡るため、各患者さんに応じたテーラーメイドのような透析治療が必要と考えています。当院は入院透析のみならず外来透析患者さんも受け入れており、最近では外来ベッドに空きが出てきておりますのでご興味のある患者さんがおられましたらご紹介頂ければ幸いです。

また新型コロナウイルス感染症の血液透析は2床の個室で対応しています。第3、4波の時は呼吸状態が重篤でネーザルハイフローが必要な時があり、その場合は当透析室まで移送が出来ず病棟の個室で出張透析を行いました。当院で病棟透析をしたのはこの時が初めてだったのですが、臨床工学技士や看護師が協力して対応してくれました。第5波も終息し現在は入院病棟も確保できるようになりました。感染症対応でバラバラになっていたスタッフが元の病棟に戻り（久しぶりに会うと皆元気で良かったーと懐かしい気持ちになりました）、腎臓内科の治療に意欲を見せてくれています。血液透析導入時はクリニカルパスを使用し、看護師や臨床工学技士、薬剤師、栄養士による指導を統一化しています。何事も初めの教育が肝心ですが、長きにわたる透析生活を豊かに送ってもらうために正しい知識を患者さんに身に付けてほしいと思っています。

最近の腎臓領域のトピックスとしては①腎性貧血の治療薬として経口薬のHIF-PH阻害薬が認可されたこと②選択的SGLT2阻害剤のダパグリフロジンが2型糖尿病の有無に関わらず慢性腎臓病（末期腎不全は除く）に適応が追加になったことです。両者とも当院で対応可能です。

最後に本年度より腎臓内科志望の専攻医として古谷真彦先生が着任しています。内科全体の研修に携わりながら、1年を通して腎臓内科にも関わり日々研鑽を積んでいます。

今後も地域の先生方のご援助を頂きながら地域医療に貢献できるようにスタッフ一同頑張っ参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 診療体制

常勤医師1名、非常勤医師2名、

ベッド数40床（うち個室2床）月水金2クール、火木土1クール。

腹膜透析には対応していませんが、腎代替療法導入時期にはすべての治療法の説明を行い、当院で対応できない場合は適切な病院に紹介させていただきます。

## 主な対象疾患

- 慢性腎不全および急性腎不全の血液透析の導入
- 血液透析患者の合併症入院
- 慢性腎炎や保存期腎不全の治療
- 潰瘍性大腸炎やクローン病、難治性水疱性類天疱瘡などに対する血液浄化療法

## 認定施設

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会認定施設





# 県立加古川医療センター外来診療表

令和3年12月1日(水)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	藤田	担当医	中村
消化器内科	1診	埴本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	廣畑(午前)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	埴本(さかもと)
	2診	廣畑	岡田	【担当医】	廣畑	森口
	3診				担当医	岡田
循環器内科	1診	福田	担当医(～14時)	岩田	片嶋	岩田
	2診	【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科		木村	木村	木村		渡部
糖尿病・内分泌内科	1診	飯田	藤田	飯田	石田	櫻谷
	2診		【大町】			
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中		田中		田中
生活習慣病		【尹(ゆん)】 肝炎	【戎谷(えびすたに)】 肥満		【石井】 肥満	
		【福田】 禁煙	装具外来			
リウマチ科	1診	田中	田中	田中	田中	担当医1
	2診	村田	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3診	西田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4診	中川	【上藤】	村田	村田	中川
腎臓内科	1診	午後	加藤		加藤(1,3,5週)	
外科・消化器外科	1診	高瀬	衣笠	小林	担当医	高瀬
	2診	多田羅(たたら)	川嶋	門馬(もんま)		【衣笠】
心臓血管外科			担当医			担当医(午後)
脳神経外科	1診	担当医	森下	森下	担当医	相原
	2診		荒井	荒井		森下
乳腺外科	1診	石川	石川		石川	担当医
	2診	小林	担当医		小林	
整形外科	初診 1診	原田	中川	高山	青木	
	初診 2診	高原		市村	西原	
	再診 1診	【青木】		原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】		【市村】	
形成外科	1診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2診	谷口		谷口	谷口	谷口
	3診	【町田】		【町田】	【町田】	【町田】
皮膚科	初診/予診	【北尾】	【原田】	【高井】	【横山】	【北尾】
	1診	横山	足立	足立	増田	足立
	2診	原田	北尾	増田	原田	横山
眼科	1診	薄木	薄木	石川	薄木	薄木
	2診	徳川	徳川	徳川	石川	石川
	3診	秋田	秋田	秋田		
泌尿器科	1診	丸山	脇田	田中	丸山	田中
	2診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	(治療)	担当医	担当医			担当医

**予約受付時間(拡大しました) 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)**

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

**お願い** 患者さんの待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。  
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。